

山人プロジェクト

2009年、当社は、企業理念を定めました。当時、コーポレート・ガバナンス(企業統治)、コンプライアンス、CSR(企業の社会的責任)、リスクマネジメント、内部統制、BCP(事業継続計画)など、企業の在り方に関して様々な言葉が使われていました。当社は一企業としてそれらをどのように整理し位置付けるかが大切だと考え、これらの言葉のそもそもの趣旨や概念相互の関係・階層を検討しました。詳細は2009年と2010年のビジネスレポートで述べていますが(当社ホームページ、IR情報 > 株主総会関係資料に掲載)、当社は、これらの言葉が表す共通の目的は「企業の持続可能性の向上」であると捉え、これを端的に表す「永遠のあと百年」を企業理念と定めました。

そして、ESG(環境・社会・ガバナンス)についても、Eは地球、Sは社会、Gは企業、それぞれの持続可能性の向上を表していると考えました。そして、ESGの順番は包摂関係をも表していると考えましたが、このように考えるとESGには、決定的に欠落している階層がひとつあることに容易に気づきます。それはN(Nation国家、Nippon日本)です。近年の国際情勢を見るまでもなくそれは明らかで、国家の存続なくして下位階層の社会や企業の存続もあり得ません。

日本は、世界で最も長い歴史を持ち、固有の伝統と文化、国柄・国体を保持しています。そしてパラカの事業領域は、正直さや、誠実、勤勉、治安の良さなど長年培われた日本の国柄に支えられています。具体例をあげると、当社の時間貸し駐車場における料金の不払い率は0.5%(当社売上ベース)と極めて低く、また無人の現場に置かれているにもかかわらず、精算機荒らしの発生もほとんどありません(2018年7月以来なし)。他の日本企業も多かれ少なかれその恩恵を受けているものと思います。パラカが包摂されている国家である日本に貢献することは、パラカの事業基盤の持続可能性を高めることに通じると考え、従来のESGにNを加えENSGとすることといたしました。

E 環境
Environment

N 国家
Nation

S 社会
Social

G ガバナンス
Governance

地球の
持続可能性の向上

国家の
持続可能性の向上

社会の
持続可能性の向上

会社の
持続可能性の向上

身支度をして
打ち合わせ中。



苗木を1本ずつ
穴に埋め、ネットを
かけます。



今年は
ケヤキ、モミジ、
ミモザなど
計150本の植樹を
行いました。



当社は、2007年以来森林保全活動を行って参りましたが、昨年(2022年)4月、森林保全活動の拠点である「あと百年センター『遙古荘』(広島県安芸高田市)」の竣工を機に、その活動を本格化してきました。2023年11月末時点で当社の所有する広島県内における山林面積は安芸高田市を中心に360.2haに達しています。

森は、水源涵養、土砂災害防止、炭素固定による地球環境保全や化石燃料代替エネルギー、生物多様性保全、保健・レクリエーション、木材生産、海産物への養分供給、大気成分調整など多くの機能を有し、ENSGの全階層に貢献するものと考えています。

『モリのしげりーず』 Mori no Sigeries



背面にチーム名と
パラカログを入れた
特製ジャケットを
製作しました！



伐採した木を椎茸の
原木に加工しました。



多様な機能をもつ「山」林の保全活動と、ENSGのなかでも特に「日本」への貢献を掛け、この活動の総称を「山人(ヤマト)プロジェクト」と名付けました。そして、当社の社員のなかでこの現場活動の中心となる人員で「モリのしげりーず」(Mori no Sigeries)というチームを結成しました。このチーム名は三つの意味を表しています。①森の茂り ②森を守る人の繁盛 ③毛利の里の繁栄(安芸高田市は毛利元就の里)です。

当社は、建国から今年で2683年の歴史をもつ日本のなかにおいて、今後とも「永遠にあと百年」存続発展し得る企業を目指し、たゆまぬ努力をして参ります。